

合には0.25～0.5mg/kgをフェンタニルとして5～10 μ g/kgと共に緩徐に静注するか、又はブドウ糖液等に希釈して点滴静注。局所麻酔の補助として投与する場合には局所麻酔剤投与10～15分後に0.25mg/kgをフェンタニルとして5 μ g/kgと共に緩徐に静注。②0.05～0.1mg/kgを麻酔開始30～60分前に筋注

【禁忌】本剤の成分に対し過敏症、痙攣発作の既往歴、外来患者、重篤な心疾患、QT延長症候群、2歳以下の乳児・小児

【重副】血圧降下、不整脈、期外収縮、QT延長、心室頻拍、心停止、ショック、間代性痙攣、悪性症候群

(プロポフォール)

【常A】

▶1%ディプリバン注ーキット 劇習指処
Diprivan 500mg50ml/本 (アストラゼネカ)

【薬価】2,569.00円/筒

【貯法】禁凍結、25℃以下

【適応】①全身麻酔の導入及び維持。②集中治療における人工呼吸中の鎮静

【用法】(注)①1)ディプリフューザー TCI機能をを用いない投与方法 (1)導入：0.5mg/kg/10秒の速度で、患者の全身状態を観察しながら、就眠が得られるまで静脈内に投与。なお、ASAⅢ及びⅣの患者には、より緩徐に投与。2.0～2.5mg/kgで就眠が得られる。(2)維持：酸素もしくは酸素・亜酸化窒素混合ガスと併用し、本剤を静脈内に投与。適切な麻酔深度が得られるよう患者の全身状態を観察しながら、投与速度を調節。4～10mg/kg/時の投与速度で適切な麻酔深度が得られる。また、鎮痛剤(麻薬性鎮痛剤、局所麻酔剤等)を併用。なお、局所麻酔剤併用時には通常より低用量で適切な麻酔深度が得られる。2)ディプリフューザー TCI機能を用いる投与方法 (1)導入：目標血中濃度3.0 μ g/mlで静脈内に投与を開始し、投与開始3分後に就眠が得られない場合には1分毎に1.0～2.0 μ g/mlずつ目標血中濃度を上げる。目標血中濃度3.0～6.0 μ g/ml、投与開始後1～3分で就眠が得られる。高齢者、ASAⅢ及びⅣの患者には、より低い目標血中濃度で投与を開始。(2)維持：酸素もしくは酸素・亜酸化窒素混合ガスと併用し、本剤を静脈内に投与。適切な麻酔深度が得られるよう患者の全身状態を観察しながら、目標血中濃度を調節。目標血中濃度2.0～5.0 μ g/mlで適切な麻酔深度が得られる。また、鎮

痛剤(麻薬性鎮痛剤、局所麻酔剤等)を併用。②0.3mg/kg/時の投与速度で、持続注入にて静脈内に投与を開始し、適切な鎮静深度が得られるよう患者の全身状態を観察しながら、投与速度を調節。0.3～3.0mg/kg/時の投与速度で適切な鎮静深度が得られる。また、必要に応じて鎮痛剤を併用

【禁忌】本剤又は本剤の成分に対し過敏症、妊産婦、小児(集中治療における人工呼吸中の鎮静)

【重副】低血圧、アナフィラキシー様症状、気管支痙攣、舌根沈下、一過性無呼吸、てんかん様体動、重篤な徐脈、不全収縮、心室頻拍、心室性期外収縮、左脚ブロック、肺水腫、覚醒遅延、横紋筋融解症、悪性高熱類似症状

(プロポフォール)

【常A】

▶1%プロポフォール注「マルイシ」
劇習指処 (後発品)

Propofol 200mg20ml/A

【薬価】1,123.00円/管

【貯法】禁凍結、25℃以下

(プロポフォール)

【常A】

▶1%プロポフォール注「マルイシ」
劇習指処 (後発品)

Propofol 500mg50ml/V

【薬価】1,691.00円/瓶

【貯法】禁凍結、25℃以下

【適応】①全身麻酔の導入及び維持。②集中治療における人工呼吸中の鎮静

【用法】(注)①1)導入：0.5mg/kg/10秒の速度で、患者の全身状態を観察しながら、就眠が得られるまで静脈内に投与。なお、ASAⅢ及びⅣの患者には、より緩徐に投与。2.0～2.5mg/kgで就眠が得られる。2)維持：酸素もしくは酸素・亜酸化窒素混合ガスと併用し、本剤を静脈内に投与。適切な麻酔深度が得られるよう患者の全身状態を観察しながら、投与速度を調節。4～10mg/kg/時の投与速度で適切な麻酔深度が得られる。また、鎮痛剤(麻薬性鎮痛剤、局所麻酔剤等)を併用。なお、局所麻酔剤併用時には通常より低用量で適切な麻酔深度が得られる。②0.3mg/kg/時の投与速度で、持続注入にて静脈内に投与を開始し、適切な鎮静深度が得られるよう患者の全身状態を観察しながら、投与速度を調節。0.3～3.0mg/kg/時の投与速度で適切な鎮静深度が得られる。また、必要に応じて鎮痛剤を併用

【禁忌】本剤又は本剤の成分に対し過敏症、妊

産婦、小児（集中治療における人工呼吸中の鎮静）

【**重副**】低血圧、アナフィラキシー様症状、気管支痙攣、舌根沈下、一過性無呼吸、てんかん様体動、重篤な徐脈、不全収縮、心室頻拍、心室性期外収縮、左脚ブロック、肺水腫、覚醒遅延、横紋筋融解症、悪性高熱類似症状

112 催眠鎮静剤、抗不安剤

1124 ベンゾジアゼピン系製剤

（アルプラゾラム）

【常A】

▶**コスタン0.4mg錠**

向指処

Constan 0.4mg/T

（武田）

【**薬価**】11.10円/錠

【**投与制限日数**】30日

【**適応**】心身症（胃・十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、自律神経失調症）における身体症候ならびに不安・緊張・抑鬱・睡眠障害

【**用法**】（内）1日1.2mgを3回に分ける。増量する場合には最高用量を1日2.4mgとして漸次増量し、3～4回に分ける。高齢者では、1回0.4mgの1日1～2回投与から開始し、増量する場合でも1日1.2mgを超えないものとする

【**禁忌**】本剤に対し過敏症、急性狭隅角緑内障、重症筋無力症、次の薬剤投与中：HIVプロテアーゼ阻害剤（インジナビル等）

【**重副**】大量連用により薬物依存、大量投与・連用中の投与量の急激な減少・中止により禁断症状、精神障害者で刺激興奮・錯乱等、呼吸器疾患への使用により呼吸抑制、アナフィラキシー様症状

（エスタゾラム）

【常A】

▶**ユーロジン2mg錠**

向習指処

Eurodin 2mg/T

（武田）

【**薬価**】18.30円/錠

【**投与制限日数**】30日

【**適応**】①不眠症。②麻酔前投薬

【**用法**】（内）①1回1～4mgを就寝前。②手術前夜：1回1～2mgを就寝前。麻酔前：1回2～4mg

【**禁忌**】重症筋無力症、リトナビル投与中（HIVプロテアーゼ阻害剤）

【**重副**】薬物依存傾向、連用後投与の急な中止によるせん妄、痙攣等の禁断症状、呼吸抑制、炭酸ガスナルコーシス、刺激興奮、錯乱、無顆粒球症、（類薬）一過性前向き健忘、もうろう状態

（クロキサゾラム）

【常A】

▶**セパゾン錠1**

向指処

Sepazon 1mg/T

（第一三共）

【**薬価**】6.10円/錠

【**投与制限日数**】30日

【**貯法**】遮光

【**適応**】①神経症における不安・緊張・抑鬱・強迫・恐怖・睡眠障害。②心身症（消化器疾患、循環器疾患、更年期障害、自律神経失調症）における身体症候ならびに不安・緊張・抑鬱。③術前の不安除去

【**用法**】（内）①②1日3～12mgを3回に分ける。③0.1～0.2mg/kgを手術前

【**禁忌**】本剤の成分に対し過敏症、急性狭隅角緑内障、重症筋無力症

【**重副**】依存性、刺激興奮

（ジアゼパム）

【常A】

▶**2mgセルシン錠**

向指処

Cercine 2mg/T

（武田）

【**薬価**】6.20円/錠

【**投与制限日数**】90日

（ジアゼパム）

【常A】

▶**5mgセルシン錠**

向指処

Cercine 5mg/T

（武田）

【**薬価**】9.60円/錠

【**投与制限日数**】90日

【**適応**】①神経症における不安・緊張・抑鬱、鬱病における不安・緊張、心身症（消化器疾患、循環器疾患、自律神経失調症、更年期障害、腰痛症、頸肩腕症候群）における身体症候並びに不安・緊張・抑鬱。②次記疾患における筋緊張の軽減：脳脊髄疾患に伴う筋痙攣・疼痛。③麻酔前投薬

【**用法**】（内）①1回2～5mgを1日2～4回。外来患者は原則として1日量15mg以内。小児に用いる場合、3歳以下は1日量1～5mg、4～12歳は1日量2～10mg、それぞれ1～3回に分割投与。②1回2～10mgを1日3～4回。③1回5～10mgを就寝前又は手術前

【**禁忌**】急性狭隅角緑内障、重症筋無力症、リトナビル投与中（HIVプロテアーゼ阻害剤）

【**重副**】大量連用により薬物依存、大量投与・連用中における投与量の急激な減少・中止により禁断症状、精神障害者で刺激興奮・錯乱等、呼吸器疾患への使用により呼吸抑制